

全工協オーストラリア研修について

滋賀県立彦根工業高等学校
3年環境化学科 前原 恵

1. はじめに

このオーストラリア研修では、オーストラリアの一般家庭にホームステイをしたり、オーストラリアの学校に通ったりと、日頃の工業高校では出来ないことが出来ると聞きこの研修に参加した。また、私はオーストラリアの文化や生活様式、環境の違いなどに以前から強い興味・関心があり、実際に体験できる良い機会だと思った。

初めての海外に対する期待と不安は大きく特に英語が得意ではないので、オーストラリアで会話が聞き取れるか、自分の言っていることが理解してもらえるかと、言葉に対する不安が大きかった。しかし、実際にオーストラリアに到着すると、不安や心配していたようなことはなく、楽しく過ごすことが出来た。一番心配していた英会話もぎこちななかったが、どうにか話が通じた。

2. ホームステイ

研修では2週間のホームステイが体験できた。私がお世話になったホストファミリーは以前にも日本人を受け入れておられ、日本の扇子などを見せてもらった。また、私以外にもノルウェー人・ドイツ人・中国人・韓国人の留学生がお世話になっていた。家の中も国際色豊かで、とても楽しかった。特に、韓国人の男の子と仲良くなる事ができ、一緒にオーストラリアの伝統的なお菓子を作ったり、日本の伝統的な遊びの1つである折り紙を教えたりとステイ先でも楽

しく過ごすことが出来た。

休日には、ホストマザーの妹やそこに一緒にホームステイしている日本の研修生達と色々な所に連れて行ってもらった。最初の休日には、セントラルマーケットにショッピングに行き、その後は歩いて街を案内してもらった。大きな美術館や図書館などの芸術的な建物やショッピング街を案内してもらいながら、様々なことを教えてもらった。街路にブロンズ像や芸術的な作品が建てられていた。まるで、美術館内を歩いている様でとても楽しかった。

他の休日には、コアラが抱っこ出来る“Gorge Wildlife Park”という動物園にも連れて行ってもらった。動物園に行ったのは2度で、1度目は遠足で別の動物園にも行っていた。ホストマザーの友達のアランさん夫婦に連れて来てもらった動物園では、カンガルーやエミュー等の動物達が放し飼いにされていて、エサを自由にあげることが出来る所だった。カンガルーにエサをあげたり、ウォンバットやディングゴ等の写真を撮ったり、コアラを抱っこしたりした。コアラは思っていたよりも軽く、毛が柔らかかった。他にも、フェアリーペンギンやワラルーなど多くの動物を見ることが出来た。アランさんは「エミューは危ないから手を出さないで。」と言いながら、エミューに素手でエサをやっていたので驚いた。奥さんは慣れているのか「He is crazy」と言っていた。そんなアランさんと奥さんにも驚いた。

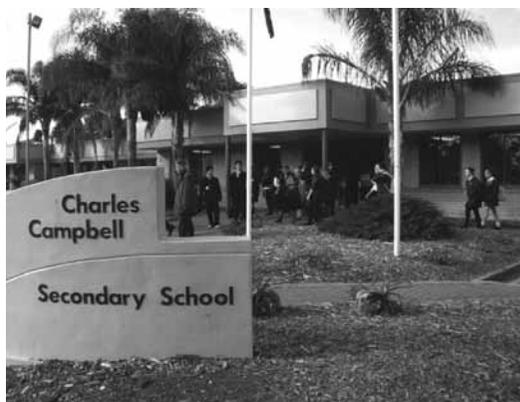
帰りに“The Toy Factory”という所とダムに連れて行ってくれた。Toy Factoryでは、巨大木馬があって、それに上れるということだったので上ってみた。木馬の上から下を見ると、意外にも高く眺めもよかった。木馬の近くに木で作られた玩具を販売している店があったので、そこにも行ってみた。店の中は木の良い匂いがして温かみがあり、玩具も沢山置いてあった。日本にもこのようなお店があれば良いのと感じた。他にも、帰り道に立てられているカンガルーの飛び出し注意の看板があり、野生のカンガルーがいることに驚いた。休日に連れて行ってもらった所は、何処も楽しくて興味をひくものばかりだった。

3. バディについて

バディとは、オーストラリアの学校に不慣れた私たち研修生のために、在校生の中からボランティアで学校での生活をサポートしてくれる生徒である。私のバディはアンバーという子だったが、アンバーに用事が出来たのでターシャという子に途中で代わった。でも、アンバーもターシャもとても親切で様々なことを教えてくれた。学校が広く自分の教室の位置を把握できず教室まで案内してもらったり、購買でのお昼ご飯の買い方を教えてもらったり、学校の友達を紹介してもらったりと、本当に親切にってもらった。お昼は、それぞれのバディと昼食を食べることになっていて、ターシャとその友達で食べるが多かった。みんなとても良い子たちで、英語の苦手な私の為にゆっくり発音して理解しやすいように話しかけてくれた。

4. 学校・授業について

私たちが約2週間の間にお世話になったのは、CCSSと呼ばれる“Charles Campbell Secondary School”という学校だった。その学校は、小・中・高一貫の大きな学校で、生徒数も多かった。また、普通科だけでなく専門的な科のある学校だった。



授業は研修生だけで受ける英語が基本で、バディの授業と一緒に受れたり、英語以外にもメディアやウッドワークという授業を受けた。英語の授業では、分からない単語や文法をみんなで相談しながら受けた。授業内容も日本の様に聞くばかりではなく、自分で考え発言しなくてはいけないので少し大変だったが、とても楽しく授業に臨むことが出来た。また、バディによって選択される教科は様々で、アンバーは一般的な教科を選択していたり、ターシャはダンスやドラマなどの専門的な教科を選択していたりと、日本の大学のようなシステムだった。アンバーと受けた授業は数学や生物で、授業内容は中学2年生のものだったので、難しくはないだろうと最初は思っていた。しかし、全部を英語で説明されたプリントを見ただけでは、理解することは出来なかった。プリントの単語を1つ1つ辞書で調べて、少しずつ訳すことで理解することが出来た。訳し終わったプリントの内容は、一度習ったことのあるものですぐに理解できた。だが、英語になることでこんなにも難解なものになるのかと、改めて英語の難しさを実感することが出来た。

また、ターシャの受講している授業では彼女の専攻しているダンスやドラマなどの見学をさせてもらった。ダンスもドラマも本格的なもので一生懸命に取り組んでいるターシャたちは魅力的だった。特にドラマの授業では、生徒が2

つの班に分かれてそれぞれ自分達のシナリオを演じていた。2つの班が順番に披露しあって、先生に評価をもらい、生徒同士でも意見を交換し合うので、真剣なその姿は生き生きとしていた。

その他にも、ウッドワークの授業ではCADで入れ物の設計図を作図し、1枚の板をノコギリで切って入れ物を製作した。ノコギリで切った板を加工する際に、大きな切断用の機械や研磨用の機械を間近で見ることができ、嬉しかった。最後には、加工の終わった入れ物に機械でマークを掘ってそこに錫を流し入れてもらった。完成した入れ物をホストマザーのパトリシアさんに見せると「It's good!!!」と褒めてくれて、とても嬉しかった。CCSSは公立の学校だと聞いていたが、日本の学校よりも優れた機械や設備が整っていたから驚いた。日本の学校ももっと設備が整っていたら、より高度な技術を身につけることが出来るかもしれないと思った。

学校内で受けた授業以外にも、遠足があった。遠足では「Cleland Wildlife Park」という動物園に行った。山の中にある動物園で、少し麓より寒かったが、空気と景色がとても綺麗な所だった。カンガルーとワラビーが沢山いて、エサもあげることが出来た。他にも、様々な動物がいて沢山の写真を撮った。

ここでは、ガイドさんが夜行性の動物の説明や紹介をしてくれた。袋から出てこようとした動物や大蛇などを間近で見せてもらい、触らせてもらった。蛇は思っていたよりも皮膚の感触



が気持ちよかった。こんな経験は初めてで、とても興奮した。

次に、バスの運転手のルーさんがせっかく来たからということで、山頂まで案内してくださいました。そこは展望台で、遠くの港や海や町などをよく見渡すことができている、その景色がとても綺麗なには大変感動した。

高台を後にし、ハンドルフという街にも行った。パトリシアさん達に案内してもらった中央通りの様子とは、また違った雰囲気綺麗な町並みだった。ハンドルフの中央通りには、色々なお店があって、みんなで店を見てまわった。革の財布やベルトを売っている店や土産屋など、帰りの集合時間ギリギリまでずっと見て回っていた。

5. 文化の違い

私は外国の文化にとっても興味があり、初めてのオーストラリアは目に映るもの全てが興味と好奇心に満ちていた。まず、オーストラリアで気になったものは道路だった。車が左側通行なのは日本だけだと思っていたが、オーストラリアでも同様だったことに驚いた。また、車道の幅も広く、上り下りが激しかった。走っている車の中に軽自動車が見られなかったので、車に詳しい日本の研修生に聞くと「軽自動車が走っているのは日本だけ」と教えてくれた。私はそのことを初めて知りとても驚いた。他にも、横断歩道や交差点にも違いがあり面白いと感じた。

次に気になったのは、風景だった。中央通りには高い建物があったが、住宅地には高い造りの家がなく、全ての家が1階しかなかった。そのことを聞くと、建物には規定があるとのことだった。オーストラリアは国土が広いので、2階建てにしなくても十分に生活するスペースがとれるため、2階建てにする必要がないということも聞いた。また、オーストラリアに住む人々は一生の内に3～5回ほど引越しを繰り返すらしい。その為、空き家も多くあると聞いた。

日本では“家は一生の買い物”と言われるくらい家は高価な買い物なのに、オーストラリアでは家の価値観が違うのかなあと考えた。

また、オーストラリアは水不足が深刻でシャワーの使用時間も3～5分程度と決められていると聞いていた。だが、街には大きな川や噴水などもあり、一見して深刻そうには感じられなかった。ステイ先では、シャワーは5分間だけだったり、節水の為に食器洗い機を使ったり、きちんと節水しているのだと思った。しかし、たまに食器を蛇口の水で洗っていたので、少し不思議な感じがした。

他にも、小さな違いだが面白いと感じたことがあった。ステイ先の家では、よく電話が鳴っていた。なぜ1日に何回も電話がかかってくるのか聞くと、「電話が好きだし、仕事や家族の用事で必要なことが多いから。」と教えてくれた。パトリアさん宅では、自宅の子機で電話をしている時に携帯電話が鳴り出すことが何度もあり、忙しそうに見えたがとても嬉しそうだった。また、ほぼ毎日の様に来客があり、家が破裂するかもしれないと思うこともあった。しかし、家族や友達とよく電話をしたり、遊びに来たりすることはとても良いことだと思う。日本に比べ、オーストラリアに住む人たちはコミュニケーションを大切にしているように感じ、これが国民性の違いなのかなと思った。

テレビで日本のアニメが英語になって放送されていて新鮮に感じ、街でもアニメのコスプレの格好をしている人達がいる、日本の文化がオーストラリアにも入っていることを実感し嬉しかった。

6. 最後に

私はこの2週間という長くて短い期間の中で、とても多くのことを学ぶことが出来た。特に興味のある文化や生活様式、国民性などの違いをよく知ることができ、好奇心の尽きることはない2週間だった。また、日本の文化を客観的に見ることも出来た。私は今の日本には、コミュニケーションや思いやりの心が欠けていると感じた。オーストラリアでは人種差別などが見られなく、家族とのコミュニケーションも多いと感じた。それは国民性の違いなのかもしれないが、日本も見習うべきことだと思う。その為にも、私自身が積極的に多くの人とコミュニケーションをとりたい。

オーストラリアで体験し感じたことをこれからの糧にしたいと思う。また、この研修で出会った研修生のみならず、日本内だけでなくオーストラリアの友達を大切にしたい。

そして、オーストラリアで私たちを受け入れてくれた人達や研修をいろんな形で支えてくれた人達にとっても感謝している。

